女の一生（1949）

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 101分
初公開日 1949/01/25

【解説】
　徳永直のプロレタリア文学『ひとりだち』を、八住利雄と水木洋子が脚色し、亀井文夫が監督。戦後における女性の労働問題を、硬派なタッチで描いた作品。
　印刷所で働く陽子は、病気がちの父親と幼い弟妹を養うため、給料のうち月に1500円を実家に渡していた。彼女は同じ職場で働く周平と結婚するが、実家のため、また自分のために、仕事を続けていた。しかし職場に新しい機械が導入されることになり、人員整理が始まってしまう。父親が仕事をクビになったため、さらに仕送りを500円ほど増やさねばならない。さらに子供を妊娠した陽子は、夫の周平から仕事を辞めてほしいと言われる。陽子は子供を堕ろすことを決意し、薬を飲むのだった。

【クレジット】
監督 亀井文夫
製作 伊藤武郎
井手俊郎
原作 徳永直
脚本 八住利雄
水木洋子
撮影 宮島義勇
美術 安倍輝明
音楽 飯田信夫
出演 岸旗江
沼崎勲
志村喬
三島雅夫
毛利菊枝
千石規子
田中栄三
有木三太
出雲八重子
若木悦子
花沢徳衛

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.